

# 意見発表者5(会場②群馬県長野原町)

## 意見の概要

一、最初に――意見聴取の内容以前の問題なり。 やり直しを求める

① ダム建設は、「原発」と同じく、まぎれもない「国策」の一つである。とりわけ59年目突入のハッ場ダムは、いわばその筆頭格と呼べよう。

従って、「最初にダムありき」の造らんがための至上命令が優先。強権を駆使して推し進められてきた自然破壊や、ふるさとを守ろうとする現地関係者の当たり前の権利さえもないがしろにされた過程。まさに人権蹂躪に値する事柄は枚挙にいとまがなく、相克の歴史をひもとく時、おのづと哭するものがある。

② 最も、看過できない最大の問題は、これからを担う、若い世代に財政的にも安全面からも、背負いきれない大きな負担を強いることにある。一連の政策審議に、何ら関与してないにも関わらずである。戦争・原発などに匹敵する国家の大罪とよべよう。

為に、責任のある親世代は、新政権樹立後の見直し策に、誰しも大いに期待した。が、裏切りに等しい愚策があいも変わらず続く。

③ 学問の砦と目されてきた「日本学術会議」にても、去る10/19、毎日新聞一面で報じられたような「最初に結論ありき」の現実が、谷誠京大教授の勇気ある質問状によって、白日のもとにさらされた。今般の「検証に係る検討報告書」過程にも、日本学術会議・有識

者会議（非公開の密室の場）と密接につながっていることは自明の理である。

④ 拙速すぎる。20日に公表し、本日29日締切とはいかにしても、ご都合主義では？

従って、治水・利水への意見を求められる内容検討以前に、「やり直し」を求める所以だ。その際、メンバーの人選には留意。非公開などの時代錯誤も甚だしい閉鎖性を伴わぬことを強く要望する。

二、 上述を、裏付ける例として概要版より

① 概要版 P14～P16

これだけの地すべり危険箇所がありながら、それらを隠蔽してきた過去の責任問題。直ちに、水没地内の各戸に謝罪説明をすべきことではないか？

② 概要版のP25 水需要の点検確認

(審議過程の手順とはいえ)、これらの機関は皆、現行の体制維持の主たる関係機関。そこが必要としているからという茶番的な結論は断じてやめて欲しい。